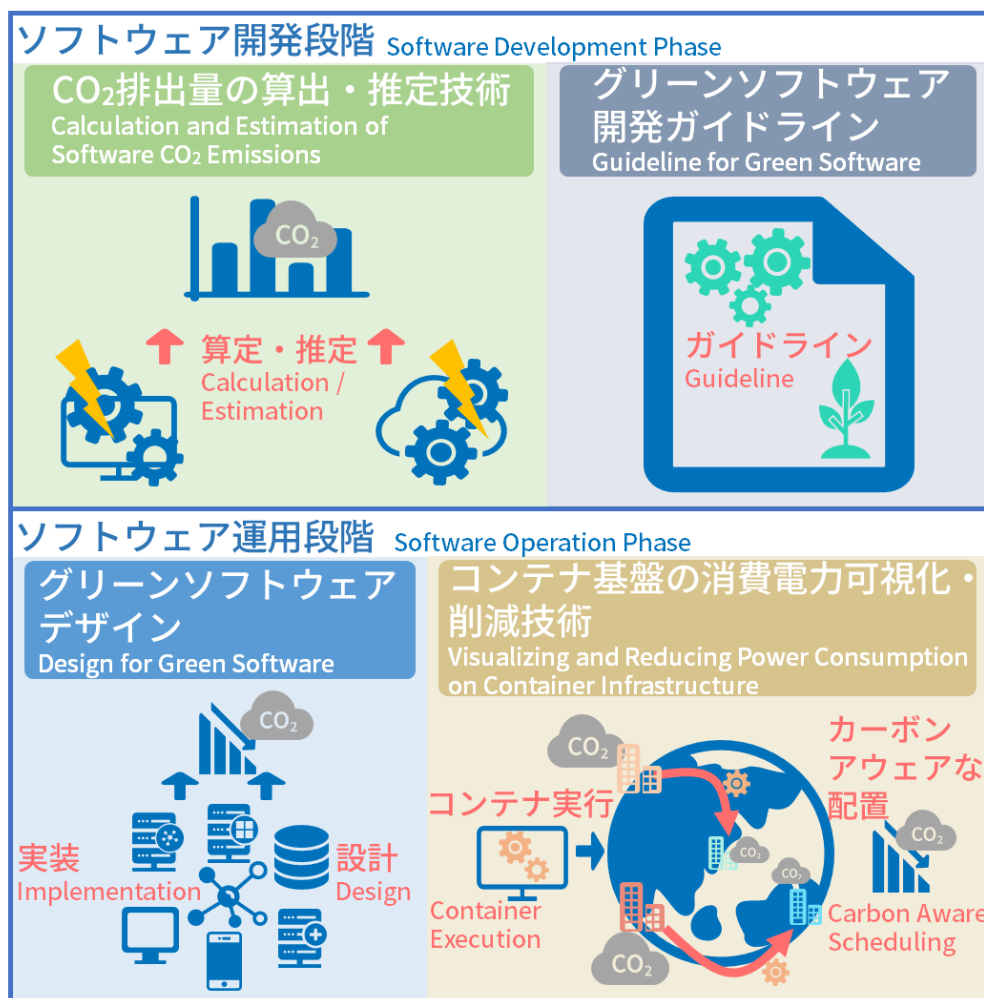


グリーンソフトウェア開発・運用技術

標準的な算定ルールに基づき、ソフトウェア製品の
CO₂排出量の可視化・削減を推進します

#グリーントランスフォーメーション



///技術課題

ソフトウェア分野では標準的な算定ルールが未確立のため、ルールに則したCO₂排出量の効率的な算定や効果的な削減ができませんでした。

///研究目標

環境負荷低減をビジネス価値とするグリーンソフトウェア開発・運用技術により、ソフトウェアサプライチェーンの脱炭素化を実現します。

---要素技術

- ソフトウェア開発に使用するICT機器の消費電力を開発プロジェクト情報や開発者作業情報に関連付けてトレースするアルゴリズム
- CO₂排出量を削減するソフトウェア実行先を選定し、ソフトウェア実行時の消費電力をリアルタイムに可視化する技術

---適用ビジネス

IT産業分野において、下記のユースケースに適用（2027年頃）

- ソフトウェア開発時のCO₂排出量の見積値／実績値を調達者に提示する「ソフトウェア製品のグリーンな調達」
- ソフトウェア製品利用に伴うCO₂排出量の実績値をビジネスオーナーに報告する「ソフトウェア製品のグリーンな運用」

---市中技術差異点

- 経済産業省CFPガイドラインに基づく、ソフトウェア開発時のCO₂排出量算定の実現
- ISO標準“ソフトウェア利用時の炭素排出量比較評価スコア SCI (Software Carbon Intensity)”に基づく、ソフトウェア実行時のCO₂排出量リアルタイムモニタリングの実現